

1 本年度の学校評価について

(1) 全体評価より

本年度の学校評価は、各項目について「4：はい、3：どちらかといえばはい、2：どちらかといえばいいえ、1：いいえ」の4点満点で評価を行い、保護者評価の全体平均は(3.57)、職員評価の全体平均は(3.49)と高評価になった。また、前年度比は、保護者対象が(+0.03)ポイント、職員対象が(±0ポイント)となり大きな変化はなかった。

(2) 保護者評価より

保護者評価では、全体平均が(3.57)と高い評価を得た。各項目の中で全校平均が(3.4以下)となったのは、「6：本校では、職員間の学部を越えた学び合いの充実と連携が図れていると思いますか。」の(3.39)。「7：本校では、個々の職員にとって必要な研修が実施されていると思いますか。」が(3.33)。「9：本校では、学部の特色を生かした地域との関わりづくりが図られていると思いますか。」が(3.34)。「24：本校では、互いに協力して円滑なPTA活動が行われていると思いますか。」が(3.35)。

昨年度より顕著に高くなったのは、「18：学校は、いじめ未然防止及び早期発見、早期対応に努め、安心して生活できる教育環境づくりに取り組んでいると思いますか。」が昨年度比(+0.34ポイント)上がって(3.54)であった。

(3) 職員評価より

職員評価の全体平均も(3.49)と高い評価を得た。各項目の中で全校平均が(3.3未満)となったのは、「4：教育目標等について保護者に説明する機会が設定され、分かりやすく説明されている。」の(3.20)。「11：学部を越えた学び合いの充実と職員間の連携が図れている。」が(2.95)。「12：個々の教員のニーズに応じた研修が実施されている。」が(3.25)。「14：学部の特色を生かした地域との関わりづくりが図られている。」が(3.20)であった。

(4) 改善策

保護者評価、職員評価とも共通して低かったのが、「職員間の学部を越えた学び合いの充実と連携」と「個々の教員に必要な研修の実施」、「学部の特色を生かした地域との関わりづくり」であった。

これを受け、改善を図るために、以下のように取り組んでいく。

- ・「職員間の学部を越えた学び合いの充実と連携」については、本校は、小学部・中学部・高等部・名取が丘校と、三つの学部と一つの分校に分かれて教育活動を行っている。それぞれの学部や分校の特色を生かした教育課程を展開しながらも、小学部と名取が丘校の横のつながりと、小・中・高の縦の系統性も考慮していく必要がある。そのために職員間の情報の共有や共通理解を図る機会や場を設け、さらに連携を図っていく。
- ・「個々の教員に必要な研修の実施」については、①「系統性のある学習指導計画を基にした個に応じた授業づくり」の授業研究と授業改善。②ICTを活用した授業実践の推進。③校内研修と外部研修会(動画)の共有による個の研修ニーズへの対応。次年度もこれらの内容を軸に、さらに日々の授業実践や研修を重ねることにより、職員の専門性の向上を図り、適切な指導の実践・学習評価ができるように進めていく。

- ・「地域との関わりづくり」や「円滑なPTA活動」については、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症対策等で地域との交流行事やPTA行事が中止になり、新しい生活様式による活動制限などがあつたことが低くなつた要因として考えられる。改善策としては、①県教育委員会の指導による感染症予防対策の実施。(改善策には、柔軟に素早く対応していく)②保護者や地域に対する教育活動(防災訓練、高等部作業製品の校外販売やアンテナショップ、尚絅学院大学との交流、出前講座等)の周知及び啓発。③地域の人材、資源を活用した教育活動の再構築と実践。④コミュニティスクールの計画・実践。以上の内容を中心に、保護者や地域・関係機関との協力・連携の強化を図っていく。
- ・「いじめの早期発見の取組」については、生徒指導部を中心にいじめに関するアンケート「学校生活アンケート」を生徒と保護者に向けて年2回実施し、また面談での聞き取りも行い、いじめの早期発見に努めてきた。そのことが保護者の理解を得られ昨年度よりもポイントが上がつたと推測される。今後も便りの発行や情報交換を行い、いじめの早期発見・未然防止の取組について理解を図っていく。

2 その他

学校評価全体会での学校評価・反省を踏まえ、次年度も重点努力目標を立て、その具現化に向けて取り組んでいく。